

函館市交通事業経営ビジョン進行管理

函館市交通事業経営ビジョン進行管理全体総括(令和4年度)

【平成29年度～令和3年度(当初ビジョン 前期5か年)】

経営ビジョン前期5か年につきましては、軌道や電路の改良、停留場へのスロープ設置のほか、事故防止に係る研修や訓練を行うなど、安全性の向上に向けた取り組みを進めました。

また、1両の超低床車両を導入し、11両の車体改良を実施したほか、乗務員への接遇研修の実施やICカードの活用を図るなど、快適性や利便性の向上へ向けた取り組みを進めました。

地域に対する取り組みにつきましては、景観等に配慮する車体広告のガイドラインの見直しに着手しました。

効率的な組織づくりの取り組みとしては、交通部事業課および電車乗務員養成所における職員数の見直しを行いました。

上記取り組みを進めてきましたが、令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の深刻な影響を受け、市電の利用が激減したことにより、令和2年度および令和3年度の運輸収益は、令和元年度と比べて1／3を超える減収となり、令和3年度に一般会計から資金不足分として、約1億4千万円の財政支援を受けました。

このような状況を踏まえ、当初ビジョンに掲げてきた考え方を引き継ぎつつ、財政計画を中心とした「函館市交通事業経営ビジョン」の中間見直しを行い、今後は中間見直し後の改訂ビジョンに基づき、進行管理を行うこととしたところです。

【令和4年度(改訂ビジョン 後期5か年 1年目)】

令和4年度は、軌道改良工事や1両の車体改良、1両の超低床車両(車体部分)の購入などのほか、継続する新型コロナウイルス感染症の影響に対して、時間帯毎の乗車率を公表し、混雑回避に努めるとともに、運行ダイヤを改正し、市電の利用状況を踏まえた輸送を実施しました。

また、人気アニメキャラクターを用いた1日乗車券を販売するなど、収益の確保を図る取り組みを実施しました。

12月には、市電脱線事故が発生し、再発防止策の検討を行いました。

運輸収益につきましては、令和元年度と比べて1／4程度の減収となり、一定程度の回復をたどりましたが、一般会計から資金不足分として、約2億1千万円の財政支援を受けるなど、引き続き厳しい財政状況となりました。

基本方針および施策目標の取り組み状況(平成29年度～令和4年度)

上段:評価件数 下段:割合								
基本方針および施策目標		「B」 評価 以上	「A」 評価	「B」 評価	「C」 評価	「D」 評価	「－」 評価なし	計
1 安全で信頼できる公共交通	(1)安全性の向上	3	0	3	1	0	0	4
	計	3	0	3	1	0	0	4
		75%	0%	75%	25%	0%	0%	100%
2 便利で快適な輸送サービスの提供	(1)快適性の向上	2	0	2	0	0	0	2
	(2)利便性の向上	5	0	5	0	0	0	5
	計	7	0	7	0	0	0	7
		100%	0%	100%	0%	0%	0%	100%
3 まちや地域への貢献	(1)地域社会への貢献	3	0	3	0	0	0	3
	計	3	0	3	0	0	0	3
		100%	0%	100%	0%	0%	0%	100%
4 経営基盤の強化	(1)収益力の向上	2	0	2	0	0	0	2
	(2)経営の効率化	2	0	2	0	0	0	2
	計	4	0	4	0	0	0	4
		100%	0%	100%	0%	0%	0%	100%
合計		17	0	17	1	0	0	18
		94%	0%	94%	6%	0%	0%	100%

A：完了した・計画を上回っている

B：概ね計画どおりに進んでいる

－：評価なし

C：計画を下回っている

D：著しく計画を下回っている